

第6回くらす部会会議録

日 時	2013年1月30日(水) 13:30~15:30
場 所	地域連携交流施設2階 会議室
出席者	西野英三郎、福本大了、梶田卓也、藤尾成子、加藤和子、村田啓子、窪田康子、橋本昌美、川崎圭子、中野操、濱口直哉、前田忠男、政本和子、笹井真貴、吉水富美
テーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1、本日参加メンバー 2、くらす部会の取り組みについて 3、今年度の振り返りと来年度の取り組みについて 4、その他 5、次回開催日の調整
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1、参加メンバー 2、くらす部会の取り組みについて くらすチーム「お泊り会」について <ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム研究活動の一環としての取り組みとして実施 ・グループホームに入所するまでに、必要な親子分離の機会とする目的 ・引き続き活動の継続を提案 ・社協デイサービスの見学会は、育成会の会員だけでなく広く周知して取り組む デイサービス見学は、午後であれば15人位の見学受け入れが可能 制度の限界(社協の指定管理の一環での町単独のショートステイであるということ)や目的をはっきりすることが必要 <p>支援者会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して相談支援の仕組みについて、検討を重ねている ・相談受付票の活用についても進めている 福祉グループで「何でも相談」の予約票を、「相談受付票」を利用し始めている ・現在の「相談受付票」の同意サインの欄は、受付票とは別に「同意書」があればいいのではないかと思う 今後検討していく 3.今年度の振り返りと来年度の取り組みについて お泊り会について <ul style="list-style-type: none"> ・検討を重ね「お泊り会」として具現化してはどうか ・本人や家族に、「親と離れて暮らす」イメージや意識を持ってもらいたい ・どうやってグループホームを作るのか、聞きたい ・H23,24年度の資料報告会を開いてはどうか ・グループホーム、ケアホームを、本人が生活を選ぶ選択肢として考えていきたい ・くらし方が合わない時に、他を選べる担保が欲しい ・子供は、親が病気にならない、家で家族と住む事が当たり前と考えている ・くらし方を探るための一環として、見学会 体験会を開催してはどうか <p>支援者会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して相談支援の仕組みについて、検討を重ねている事を来年度も取り組む

防災に備えてわたしが出来る事について

- ・今年度、危機管理グループと協働して「防災展」を開催した
- ・播磨町総合防災訓練の際に、当事者や家族にアンケートを実施した
- ・自主防災組織と危機管理グループの連携が、少しずつ進んでいる
- ・「播磨町緊急医療キット」と「かけはし」をリンクさせて、「かけはし書き方教室」参加者に連絡カードを書いてもらうなどをしてはどうか
- ・今後も、自主防災組織や民生児童委員との連携をとっていく
- ・防災展開催と緊急お助けカードの記入を、継続し皆で意識を持つことが必要
- ・「播磨町緊急医療キット」高齢者配布と種障害者に配布しているが、希望者が少ない
- ・「播磨町緊急医療キット」の書き換えを、育成会の総会等で行っても良いのではないか
- ・防災のモデル地区として、古田東地区での個別支援計画作成の取り組みが進んでいる
- ・地域で見守る仕組み作りが必要
- ・防災時、「助けてほしい人（要援護者）」を増やす取り組みをしてはどうか

以上の3点について、来年度も引き続き取り組む

4.その他

H25年2月21日(木)

9:30～10:30 推進会議(研修会) 播磨町役場BC会議室

10:45～12:00 全体会

「計画相談支援と地域自立支援協議会の役割」

～本人の望む暮らしを実現するための相談支援を～

関西福祉大学准教授 谷口泰司氏

5. 次回開催日の調整

H25年4月24日(水) 13:30～15:30 地域連携交流施設